

●事例紹介●

居心地の良い大学図書館をめざして
～新図書館における学生サービス～

八木 融子

(盛岡大学図書館事務室長)

一 大学の概要

盛岡大学は岩手県にある開学から二五年の比較的新しい大学である。文学部のみ単科大学で、英語文化学科・日本文学科・社会文化学科・児童教育学科の四学科で構成されている。キャンパス内には短期大学部も設置されており、食物栄養科・幼児教育学科の二学科を置いている。大学・短大合わせて約二二〇〇名の学生が学び、約八〇名の教員が教育・研究に従事している。

二 新図書館建設までの経緯

キャンパスは平成元年に現在の場所に移転し、昨年(平成一七年)新図書館がオープンするまで、図書館は大学棟の一部に長い間仮住まいをしていた。

大学キャンパス移転前の旧図書館は、新キャンパスから約一〇キロほど離れており、蔵書をすべて新キャンパスに運ぶことができず、新キャンパスには蔵書の三分の一を移し、三分の二は旧図書館に残し、そのまま閉架書庫として利用していた。大学棟の一部を利用した図書館の狭隘化、進む大学図書館のシステム化、旧図書館書庫との距離など

が利用を限界に至らしめつつあった。
 おりしも、法人創立五〇周年記念の周年事業の一環として新図書館建設構想が浮かんだ。現行図書館の問題点を解決し、さらに大学の学術支援の中核をなす図書館をつくることに合意を得て、具体的に計画が進められたのである。

三 図書館建設の基本方針

新図書館の建設に際しては学修・研究活動の支援といった基本的な図書館機能の充実に加えて、利用者である学生・教職員との「対話」を重視し、情報提供をより円滑に行い、学生の憩いの場でもありながら知的活動や交流を進めることができること、かつ卒業生や地域社会に開かれた図書館とすることを目標に掲げて進めてきた(写真1)。

特に「対話」は平成一二年から大学の将来について論議される中で集約提示された本学の基本的考え方「対話のある大学」を図書館業務推進の基本的姿勢としたものである。このように、学生がキャンパス内で知的活動を展開する新たな場として図書館を位置づけるといってもものであった。



写真1 図書館カウンター周辺

四 新図書館の概要

新図書館は平成一七年七月竣工、同年九月二六日供用開



写真2 建物外観

始された。鉄筋コンクリート造二階建、建物総面積約二二〇〇平米の図書館である。

蔵書約一五万二〇〇冊、雑誌約二五〇〇種、大規模な図書館ではないが、大学が新キャンパスに移転し建物群も少しずつ整備された中での新図書館建設は学生のみならず教職員にも感慨深いものがある(写真2)。

五 新図書館開館から一年

入館者数は、従前の大学棟一部仮住まい図書館と比較して二倍を超えている。仮住まいの平成一七年四月から七月までの延べ入館者数は約一万名であったが、平成一八年同時期では約二万三〇〇〇名となっている。同様に、学外利用者も倍増している。

六 設備の充実と利用動態

①閲覧席は、開架書架付近に多く設置し、開放的な雰囲気
 のスペースを確保している。

②多目的学習室

グループで利用できる多目的学習室は移動壁によって自

由に広く使うことを可能にしており、ゼミやサークルの打ち合わせばかりでなく学生の書道展、小規模の講演会及び学会会場等に利用されている。大学・短大の試験時期には学習室を開放して臨時的な利用も行われている。図書館側からは利用者教育の場としても活用している(写真3)。

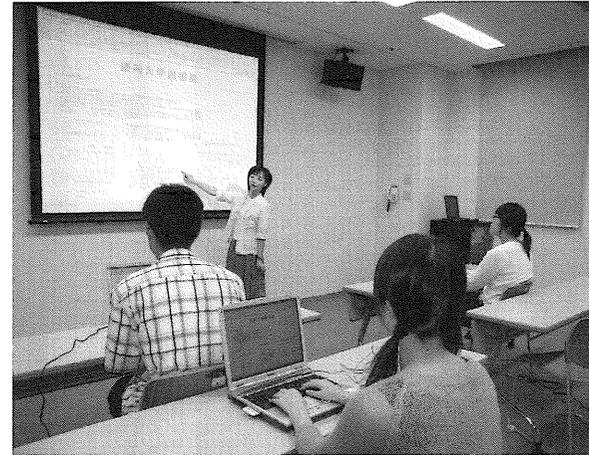


写真3 多目的学習室

③ A V視聴コーナー

非図書資料の活用を図るため、個人またはグループで利用できるA V視聴コーナーを設置している。ビデオやDVD、CD等をコーナー近くに配架して利用しやすいようにしたため学生は授業の合間にも友人とビデオ等の鑑賞をしている(写真4)。

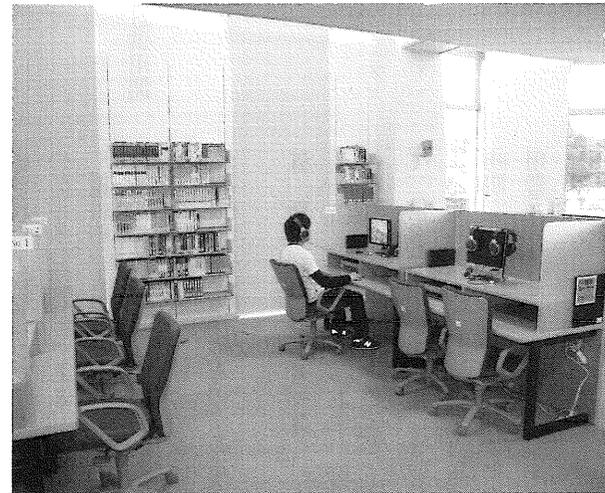


写真4 A V視聴コーナー

④ 絵本・実習書コーナーの新設

本学は大学に小学校教員養成課程・幼稚園教員養成課程、短期大学部に幼児教育科があるため幼稚園教諭、保育士を目指す学生が多く、絵本・紙芝居等の幼児教育用実習資料や関連資料を置くコーナーを設けている。実習時期に



写真5 絵本・実習書コーナー

は資料を選ぶ学生で賑わっている(写真5)。
⑤ 学生ホール
学生ホールは図書館入り口に隣接しており、椅子、飲料の自動販売機、ロッカーを設置している。館内で勉強し、合間に自販機の飲み物で一息入れている学生の姿も少なくない。

開館して間もなく、ホールに館内利用案内を置いたところ、学生達からサークルの機関誌や同人誌を置かせて欲しいとの要望がでた。図書館の枠を超えて学生達の活動を支援する形となったことは予想しなかったことである(写真6)。



写真6 学生ホール

⑥ パソコン利用の多様化

学内ネットワークへ接続できる検索機器及び蔵書検索専用パソコンを配置し、学生が資料を探すための便宜を図った。情報検索コーナーを二二台に増設し学術データベースの自由な検索に供している。検索コーナーをカウンター近くに配置し、検索についてのアドバイスをいつでも気軽に受けられるようにしたことは、利用者である学生だけではなく図書館職員も対利用者サービスが容易にできるといふ相乗効果がある。

学修のツールとしてパソコンをノート代わりに使用する学生も増えており、館内にパソコンを持ち込む学生も多い。卒業論



写真7 パソコンの利用状況

文作成の時期には多くの学生が館内でパソコンに向かう姿がみられるようになった。

また、データのみ持ち歩く学生のために、館内で使用するパソコンを貸し出すサービスも行っている。現在は六台を用意しているが卒論時期にはすべて貸し出されていることもしばしばあり、学生の利用動向を見て今後の対応を考

えている。

その他に印刷専用のパソコン及びプリンタを設置しており予想を超える利用がある（写真7）。

⑦ 滞在型利用者の増加

自由に閲覧できる開架スペースが広がったことで、時間をかけてゆつくりと資料を探す学生の姿が多く見られ、長時間滞在する学生が増えている。

七 多様な図書館利用

学生が長時間利用するようになり、滞在型の利用が顕著になったが、図書館の利用は資料の検索や滞在型学修に加えて広がっている。

バス発着所に近いこともあり、バス時間までの待ち合わせ場所として学生ホールで友人と過ごす学生もいる。授業の合間にオープンスペースでのんびり新聞や雑誌を広げる姿も見られる。今まで図書館に足を運ぶことのなかった学生も来館するようになり、これからの利用が大いに期待される。

このように新図書館は、学修のみならずキャンパスにおける居心地のよい図書館として一歩を踏み出している。